小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表　　2019 年度

法人名	NPO 法人ワーカーズコープかがやき	代表者	新井　厚美
事業所名	四季のベンチ	管理者	松崎　裕子

法人・事業所の特徴	一人ぼっちにしない、寝たきりにならないしないを理念に、利用者一人一人に寄り添い、「通い」「訪問」「泊まり」を柔軟に組み合わせることにより、住み慣れた地域でその人らしい暮らしが続けられるように支援いたします。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	2 人	2 人	0 人	2 人	1 人	0 人	2 人	0 人	10 人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	地域の防災訓練や行事に参加する。	水害訓練には声をかけてもらった。実際の台風 19 号の時は、地域に協力する余裕がなく、利用者様の対応で精一杯であった。	近所の方と気楽に話ができつつある。今後も地域との関係を深め、災害時に協力できるようにしていきたい。 事業所自己評価は、常勤非常勤職員がほぼ参加したため、評価にバラツキがあったのではないか。	職員ができないことや分からないことを一人で抱え込まないように、ペアを作ってお互いに目標を評価したり、分からないことを聞きやすい環境にしました。これがどの程度、活かされ効果があるのか 1 年を通してみていく。
B．事業所のしつらえ・環境	インフルエンザ予防をする。　入りやすい入り口作りをする。	職員から利用者様に感染することがないように体調管理確認を毎日のミーティングで行なっており、単調不良時にはすぐに病院に受診してもらっている。	事業所の中を見たことがない方もいる。 何か用事がないと入りにくい。 隣にサロンがあるので、よく顔を出している	インフルエンザ予防は、冬の最大の課題である。昨年、除菌消臭剤「ビエリモ」の効果があったので引き続き使用していく。今年もインフルエンザを出さない・広げない。
C．事業所と地域のかかわり	家族会に参加しやすい、内容と日程にする。パンフレットを置かせてもらう場所を拡大する。	家族会に関しては、平日開催から日曜開催にし、送迎時に声がけをして参加者を増やした。高齢者生協東信センターのパンフレットを作成、配布している。	以前からボランティアの方が多く、来てくださった時には利用者様とお茶の時間を楽しんでいる。 防災訓練に家族の方や地域の方にも声をかけ参加してくれるように更なる声かけが必要。	地域資源とは何か？との勉強会をして、地域とのかかわりを意識する。できれば四季のベンチが地域資源となるようにする方法を考える。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者様への手厚い訪問を通して、自宅で出来るだけ長く生活できるように支援していく。	独居の方は比較的手厚く訪問に入れるが、家人がいる家は、家人に任せることもおおく、家人が見ていない間に転倒や怪我をしてしまうことがあった。	家人がいるからといっても、家人も介護の仕方が分からないし、いつもと違う時にどう対応していいのか分からないことがある。	利用者の思いを大切にし、以前の暮らしに近づけるように個別の対応をきちんとする。（妻に会いに行く・買物を自分でする・散歩をする・近所の友達とお茶を楽しむ・歩く訓練をするなど）
E．運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議であげていただいた意見に対してすばやく対応・改善していく。	運営推進会議後に報告書を作成し、意見をまとめ、運営推進委員に手紙で出している。職員会議やリーダー会議等で話し合いをし、改善できることはしている。不可能なことは、他の方法を検討している。	地域の資源の一つとして一緒に事業所を育てていくための会議にしていきたい 定期的に委員が変わるので多くの人に参加してもらいたい。	職員の参加回数を増やし、四季のベンチの様子や状況を話す。運営推進会議は会議室で行なっているが、実際に四季のベンチ職員と利用者様の様子を見て頂く。
F．事業所の防災・災害対策	地区との合同防災訓練の呼びかけを回覧板などを通して行い、参加人数を増やしていく。 家族の参加も検討する。	今回は、台風 19 号のときの対応と反省を重ね、訓練どおりには行かないことが多いことを学んだ。必要な設備や災害時の利用者様の受け入れ態勢も再検討した。	災害時に、体の不自由な方や精神的に不安定な方の受け入れ先が欲しい。	例年通り、防災訓練年 2 回と水害訓練を行なう。 回覧板で地域の参加を呼びかける。 家族に水害時にどうして欲しいか、個別に意見をいただき、対応方法を検討する。